# 人類遺伝学教室 (医学系研究科 国際保健学専攻)

Department of Human Genetics, School of International Health, Graduate School of Medicine

教授: 徳永勝士

准教授: 馬淵昭彦

助教/特任助教:

宮川卓、人見祐基、

澤井裕美

ポスドク:3名

技術員:6名

大学院博士課程:8名(海外より4名) 大学院修士課程:1名(海外より1名)

卒研生:2名

臨床教室からの大学院生受け入れ:1名

興味のある方は

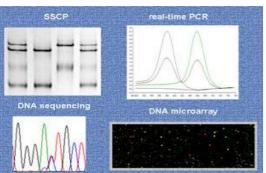
ホームページをご覧下さい。

http://www.humgenet.m.u-tokyo.ac.jp/

ラボ見学も随時受け付けています。

連絡先:(tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp)











我々の研究室では、ゲノム研究の方法論を導入した人類遺伝学的アプローチに基づき、アジア集団を中心とした人類集団の遺伝学的多様性を明らかにするとともに、睡眠障害・肝疾患・重症薬疹・感染症・骨関節疾患などの各種多因子疾患の遺伝素因・病態の解明を進めています。

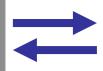
現在、以下のような研究テーマを中心に研究を行っています。

- \*睡眠障害の遺伝素因の解明(ナルコレプシーなど)
- \*肝疾患の遺伝要因の探索(B型肝炎・C型肝炎・原発性胆汁性肝硬変)
- \*重症薬疹の遺伝要因の探索
- \*感染症の宿主側要因の解明(結核など)
- \*骨関節疾患の遺伝素因、病態の解明
- \*ゲノム多型解析システムの開発
- \*アジア系集団のゲノム多様性とその成因の解明

#### 人類遺伝学教室の研究活動

#### 疾患関連遺伝子

睡眠障害、肝疾患、 重症薬疹、マラリア、 骨関節疾患、結核、 糖尿病など



ヒトゲノム多様性

アジア集団の近縁性 集団の起源と形成 自然淘汰と遺伝的適応

#### ポストゲノム解析技術と理論の開発

ヒトSNP (多型) タイピングセンター 統計遺伝学の理論開発 遺伝子多型解析技術の開発

#### 人類遺伝学教室が目指すこと

多因子疾患の遺伝要因、発症メカニズムの解明 生活習慣病、common disease、感染症など 国内外の多くのグループとの活発な共同研究 民族差、個人差の解明



新たな治療法への貢献 民族、個人に適した医療への貢献 発症危険率の予測 環境因子から発症を予防する

## I. ヒトゲノム多型解析システムの確立:

ヒトSNPタイピングセンターを設置し、ゲノムワイド関連解析(GWAS)を用いた網羅的な一塩基多型(SNP)解析を実施しています。 さらに、一部の疾患を対象に、次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンスを実施しています。

#### ヒトSNPタイピングセンター

#### (目的)

- 疾患遺伝子同定の促進
- 「応用ゲノム」班員よりSNP タイピングを受託
- 多施設共同研究を支援

#### (タイピング受託基準)

- 1) 検出された候補領域における網羅的SNP解析
- 2) 推定される発症機序に基づく候補遺伝子群のSNP解析 3) ゲノムワイド関連解析(GWAS)

#### (解析実績)

- 1,2) 10,000タイピング/日
- 3) 90万タイピング x 64 検体/週

#### (サンプル)

1,2) whole genome amplification処理試料

#### (テクノロジー)

1,2) DigiTag2

3) 90万SNPタイピングアレイ



#### ゲノムワイド関連解析(GWAS)

- ヒトゲノム全体を密に網羅する30~100万の SNPを用いてケース・コントロール関連解析を 行う、遺伝統計学的手法
- ・病気に関連するSNPが犯人だとしたら宇宙の 人工衛星で犯人を捜すみたいな感じ





Control ··CC TT TT TC TG GG GG CG TT TT TC CG AC AA·· ·· AA GG AT CC TT GG CC CG TT AT CC GG AC AC· · ··CC TG AT TT GG AG CG CC TC AA TT GG AC AA·· Control ··AC TT TT CC TG AG CG CG TC TT TC GG CC AA·· ··CC GG AT TC TG AG CG CC CC AT CC GG AA AC·· ··AC TG AT TC TT AG CG CG CC AT CC GG AC AC·· ··AA TG TT CC GG AA CC CG TC AA TC GG AC AA··

#### <u>ヒトSNPタイピングセンターのおもな成果</u>

- 2型糖尿病(神戸大、東京女子医大他との共同研究)
  - ➤ 感受性遺伝子KCNQ1を同定 (Yasuda K et al, **Nat Genet** 2008)

#### ナルコレプシー(多施設共同研究)

- ➤ 感受性遺伝子HLA-DQB1 CPT1B CHKBを同定 (Miyagawa T et al, **Nat Genet** 2008)
- C型肝炎治療の有効性(名古屋市立大他との共同研究)
  - ➤ 感受性遺伝子/L28Bを同定
  - (Tanaka Y et al, **Nat Genet** 2009)

#### 関節リウマチ(多施設共同研究)

▶ 9ヶ所の感受性遺伝子を同定 (Okada Y et al, **Nat Genet** 2009)

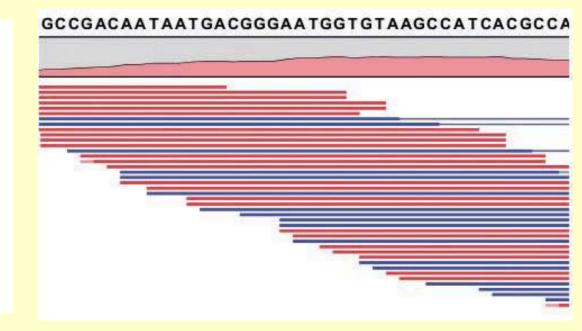
#### 原発性胆汁性肝硬変(長崎大他との共同研究)

- ➤ 感受性遺伝子HLA TNFSF15 POU2AF1を同定 (Nakamura M et al, **Am J Hum Genet** 2012)
- スティーブンス・ジョンソン症候群
- (京都府立医科大他との共同研究)
  - > 複数の感受性遺伝子を同定 (Ueta M et al, 論文投稿中)

#### <u>次世代シークエンサー・全ゲノムシークエンス</u>

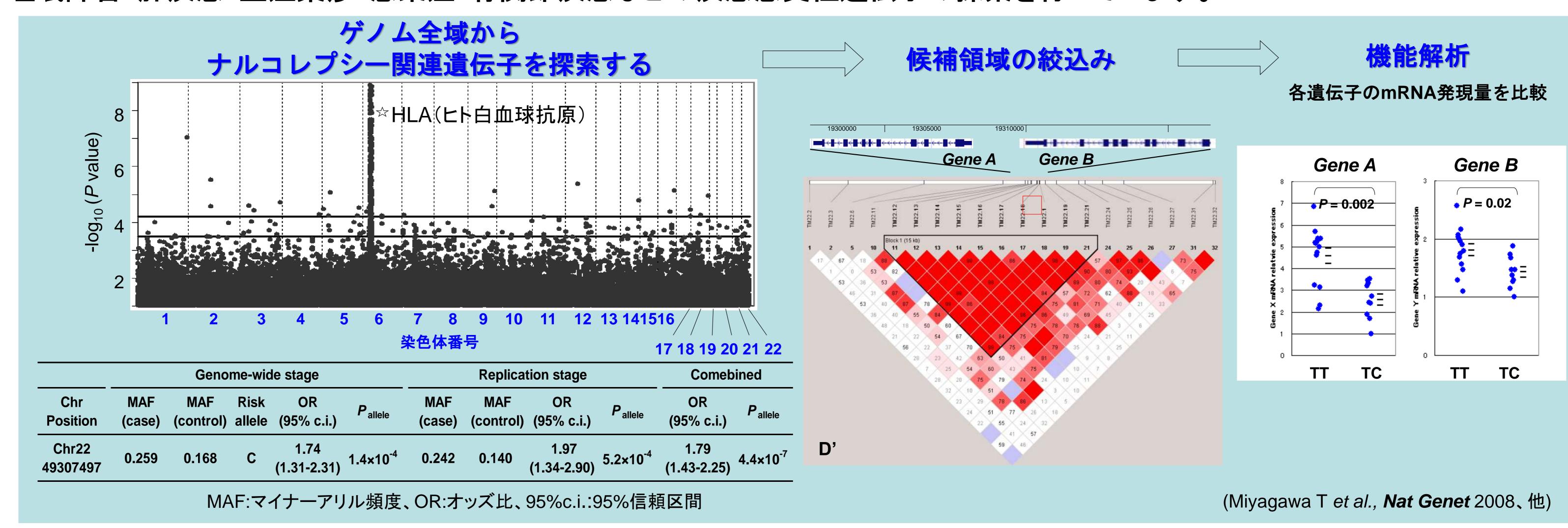
- 全ゲノムにわたって、200bp程度のDNA配列をランダム に解読し、得られた数千万~数億のDNA断片の配列を パソコンで並列処理する
- 1~2日で、ヒトの全ゲノム塩基配列の解読が可能
- Ion Proton (Thermo-Fisher Scientific)



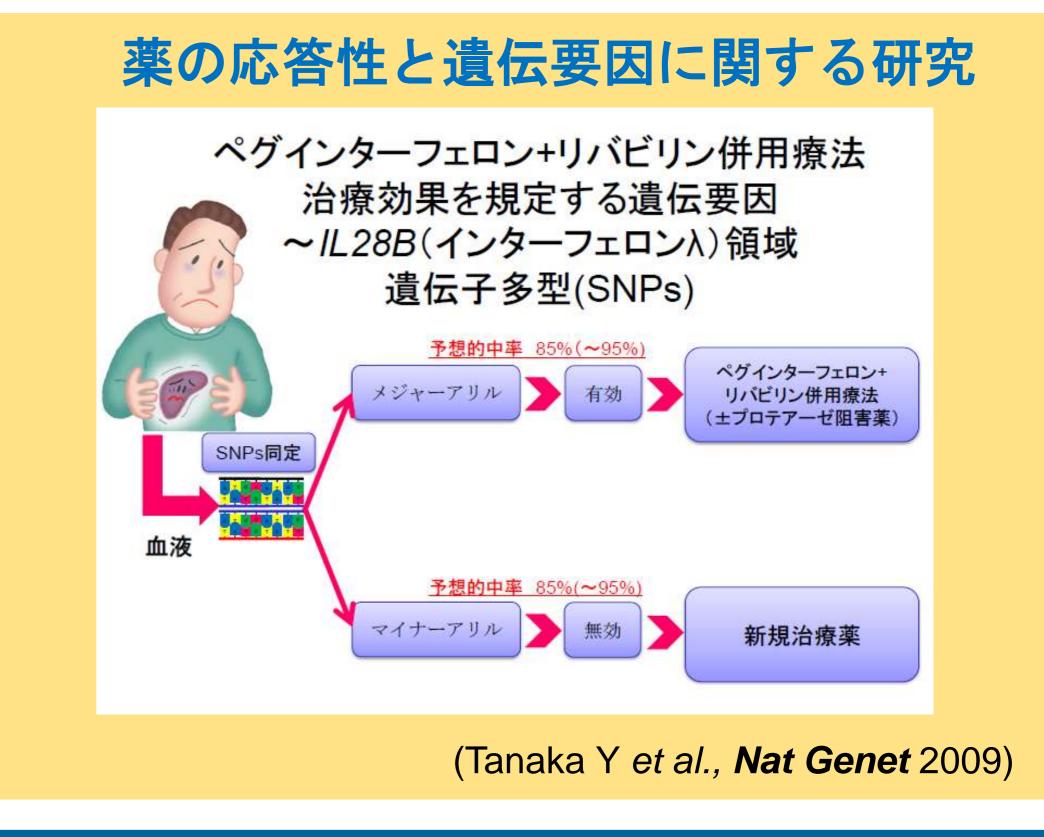


## II. 疾患感受性遺伝子の同定:

睡眠障害・肝疾患・重症薬疹・感染症・骨関節疾患などの疾患感受性遺伝子の探索を行っています。







## III. ヒトゲノムバリエーションデータベース:

Human

SNPタイピングデータの半永続的な集約管理と研究者間の情報共有を目指したデータベースを構築しました。

## ヒトゲノムバリエーションデータベース

一 疾患解析から医療応用を実現するDB開発

(http://gwas.biosciencedbc.jp/index.Japanese.html)

- 1. 日本人健常者のデータを登録した「標準SNPデータベース」
- 2. 日本人健常者のコピー数多型(CNV)を登録した「CNVデータベース」
- 3. 日本人を対象として実施されたGWASの情報を登録した「GWASデータベース」

